

エルフ



淫紋

本編の付

LEVEL:4



▶ R-18

■奥付

エルフに淫紋を付ける本 LEVEL:4

2021年12月31日発行

作者 にの子

にのこや <https://ninokoya.com/>

mail ninokoya@outlook.com

エルフの隠れ里

若き族長・シエラディーナが治める
外界から閉ざされた
エルフたちが隠れ住まう古の聖地

人間たちの手による都市開発で
地上の魔素が減少した現在、
大半が魔力を失い、居場所をなくした
エルフの最後の楽園……

あーっ♡



な…

なんで……
私の家で……

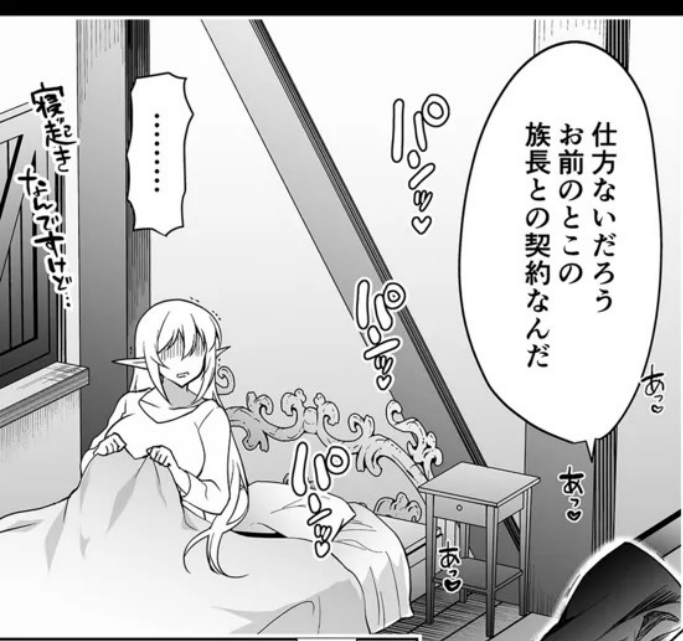


あーっ♡

あっ♡

魔術師様♡

おちんちん様
嬉しいですっ……♡



寝起き…
たまにはいいよ…

仕方ないだろう
お前とこの
族長との契約なんだ

そう……
この男と
族長が交わした
契約



—この魔術師の淫術は
もとは我らエルフの里の
宝玉の力

宝玉は、
かつて人の王より
永久の友好の証として
各地のエルフの
長たちへと贈られた

しかし…今は
そのことを知る者も
殆ど残ってはおらぬ



しかし
妾の魔法ならば
各地の宝玉の在処を
探れよう

我らエルフの里一同
お主が宝玉を得る
手助けをしようぞ

先に契約した通り、
このエルフの里を拠点とし
森の守り手シルファを
旅の伴侶に連れ立つと良い

なるほど……
では俺はお前らに
何をすればいい？



…魔素の減少により、
力を失いつつある我らエルフは
現在に至るまで、深刻な
過疎化と少子化に悩まされておる

この里には長い間
同族の男もおらぬ

さらに魔素の蓄えの少ない
エルフたちでは
そこの者の種では
孕むことはできぬ

そこで
お主には

その淫術を使い、
魔素を蓄えた精子をもって

我らエルフの里の女たちと
子を成すことを頼みたい

いいだろう

すんなり、

はあ!?

くわ、

ななな
なんで!?

あわわわわ

こんな男の
種っ:!!

シルファ:
諦めよ

そうだ もう
決まったことだぞ



今…きつと
中で大きく…



あ…もう
…射精るんだ



いいぞ…
そのまま
締め付けろ



くっ…
射精すぞ…



あ…あ…
あああ…
…っ

出てるんだわ



膣内で…っ



族長との契約を境にこの男は...



道具屋の娘
セレナ...

はあ...♡
魔術師様...♡

お恵み
ください♡

淫紋が...
せつないん
ですう...♡

行く先々で

しゅごい
れすう...♡

あいつの淫行を
目撃する日々...

古代書物司書の
ソニカ...

あっ♡
あっ♡

こんなこと
はしたない
...♡



私のことは
お構いなし…!

こんな淫紋付けておいて
放置って…なんて男…!

契約で私を旅の供に
連れてくんじゃ
なかったの!?

まさか、もう私に
飽きたっていうんじゃ
…

イラ
イラ

カ
カ

ざ、ざ、ざ、ざ



しかし…
大きくなりおった

すぐには
分からなかったぞ



よう来たな



あの男…
また誰かと



…誰かと
勘違いしてないか?

?



ぞぞぞ族長…!!?

まあよい：
人払いは済ませた

↑

一度目は背後から襲われ
お主のペースじゃったが

二度目は
そうはいかぬぞ
……？

お主

お主のその
淫術――

さあ…来るがよい
妾の魔術師よ…

本気の妾に
通用するか
試してみよ





コレじゃないだろ
ちゃんと言うんだ...

ああっ...

ちんぽ...
チンポ欲しかった
のおっ...
お願い...
もっと.....

チンポ...
チンポ...
チンポ...



あああ...

チンポ...
チンポ...
チンポ...



淫乱熟女エルフ...
正直嫌いじゃ
ないぞ...

チンポ...
チンポ...



あ...
あ...
あ...



種付け交尾の
ほうがっ
大事
だからっ

いいっ♡
長の座なんてっ…

村の秘密も
全部渡すからっ♡

わらわをお主様の
メス奴隷にしてっ…♡



自分勝手に
イキ散らかして…
エルフの里の長が
この体たらく

村の女どもに
申し訳なく
ないのかっ



んじ…
キレト…♡

あふっ♡



それは
魅力的な提案だ…
考えとこう

ほら
イクぞ…
出るっ



※IX-ジ映像



それだけじゃ
ない……



けど……
この胸のモヤモヤ

悔し……



うっ……
くっ……

くち……♡



私も……
私だって

したいのに
……!



あんな
見せつける
ように……

他の娘を
抱いて……





何てことしてるの私……

いくら欲求不満でもこんなところでオナニーなんて

みんなに見られたらどうするの……

ああ……でも……

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡



あんな風に私も……っ♡



あいつに精液貰えてないから……

淫紋がずっと疼いちゃって……

欲しい……♡

あんな男のものを欲しくてたまらない……っ♡



ほしてほして……っ♡

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡



ああ…♡
こんなの…

ダメなのに…♡
すぐイっちゃう
…♡

一回だけ…



一回だけならっ…

♡…♡

♡…♡

♡…♡



♡…♡

…♡



イク…イク…♡
いっちゃう♡

外なのに…♡

いつくう…♡

ああ…私
なんてこと…

もう…止まらない…
ダメになる…♡

結局……

あのまま3回は
外でイッたし……

家に帰っても治まらなくて
一日中ずっとしてしまった
……

なのに……

消えない……

カチンカチン

私の身体が
覚えちゃったんだ……

数日後——

あの男の精液が
欲しいって……

さて
旅支度も済んだようだし
さっそく二つ目の宝玉の
在処を伝えよう

やっと……
旅に出るのね
……

二つ目の宝玉は
ここから——

先代が床下収納に
使っておった
この扉の奥が……



更なる宝玉を祭る
ダンジョンへと
繋がっていった
ようだ

Shirley...
Shirley...

えっ……

近……

あ、かたみは……



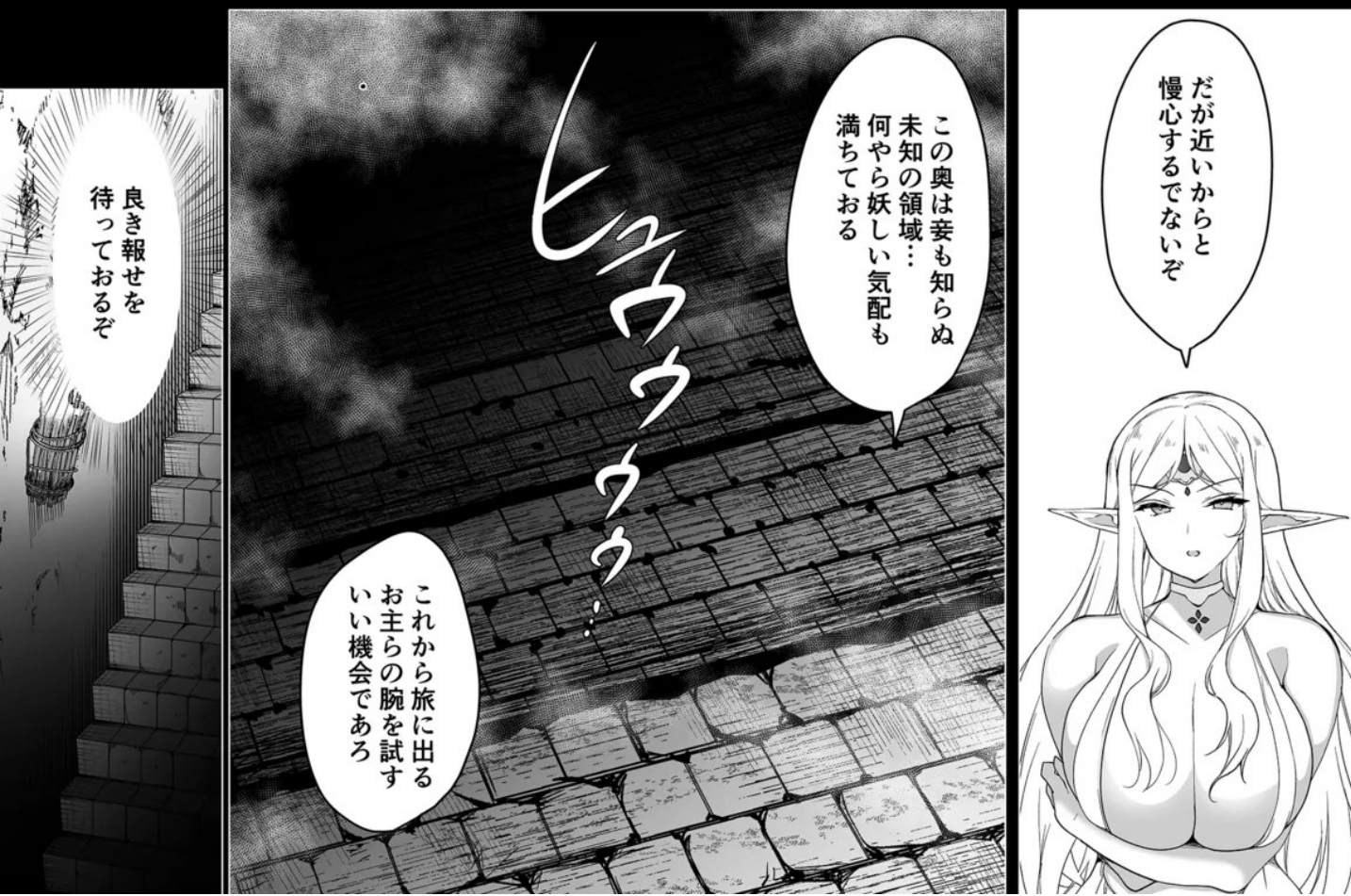
まあ長寿ゆえ
忘れっぽいエルフの
ことだからの……

妾も探してみ
て驚いたわ……

別に今まで
誰も探しに
来なかったしな
……

か……

……エルフの
秘宝なのに
……？



だが近いからと
慢心するでないぞ

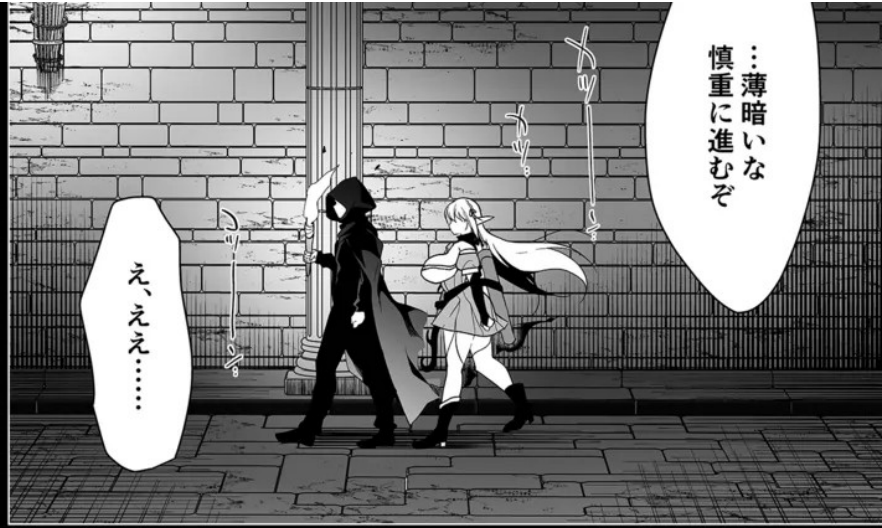
この奥は妾も知らぬ
未知の領域……
何やら妖しい気配も
満ちておる

シユウウウウウ

これから旅に出る
お主らの腕を試す
いい機会である

良き報せを
待っておるぞ

薄暗いな
慎重に進むぞ



え、ええ……

久しぶりに
二人きり……

なんだか話し
にくいわね……



……なんでしれっと
私を先行させようと
してるのよ!?

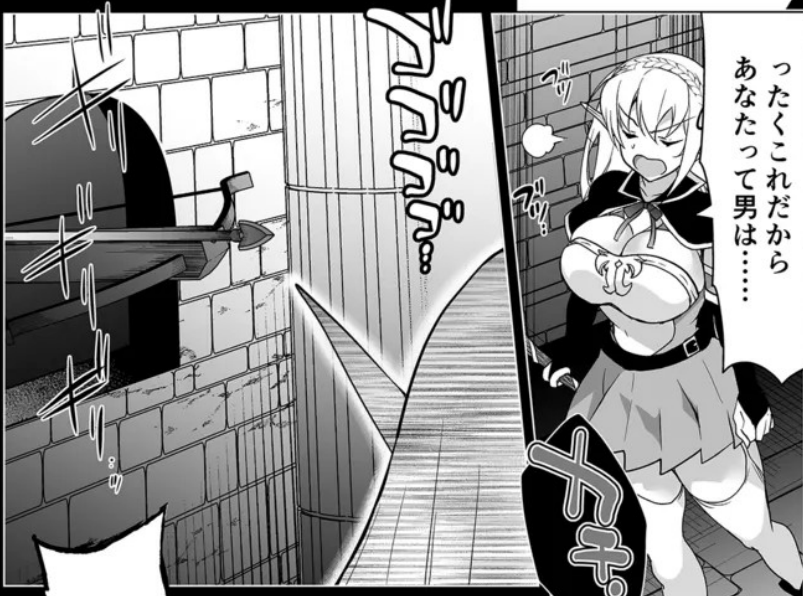
お前、里一番の
強者なんだろう?
頼りにしてるぞ……

うぐぐ……

こういう奴だったわ!
緊張して損した!



まったくこれだから
あなたって男は……



……?





はあ…はあ…
思ったより深いわね
このダンジョン…

やはり…フウツ…
魔物の巣窟に…
なっていたな…ハアツ

この先、
妙に狭いわね
…

—って
この道…

この縄の上を
渡れってコト!?

仕方ないな 行け
俺は絶対いかなぞ

フイッ
ぐらうぐらう…

しかも…この縄
濡れてる…
ぬるぬる
して…っ
ぬる…
ぬる…
ぬる…

はッ…っ
はッ…っ
はッ…っ

うう…
やっぱり…
こんな
渡ったら…
大事どころ
こすれちゃう
じゃない…っ
きゅっ…
きゅっ…
きゅっ…
きゅっ…



…!!



ふっ…
やっと半分…
やっと目が
慣れて…



おっ
おっ
おっ

あああ…ダメ…!
おまんこ限界なのにつ
おっばいまで
責められたら…ッ



や…この縛りて
触手の魔物だったの
…!!



ああ…下からも…
織毛が…ッ

淫紋出ちゃって…
我慢が…ッ



何もなさそうに見えるが――

…この道も
何かの罠…？



…
すぐ助けてくれても
いいんじゃない…？

――渡り切ったら
違う道が出現する仕掛けか
なかなか大がかりだ

スッ
スッ



このガス…
息を止めても…

体内に



あつ

まさか
毒ガス…!!?

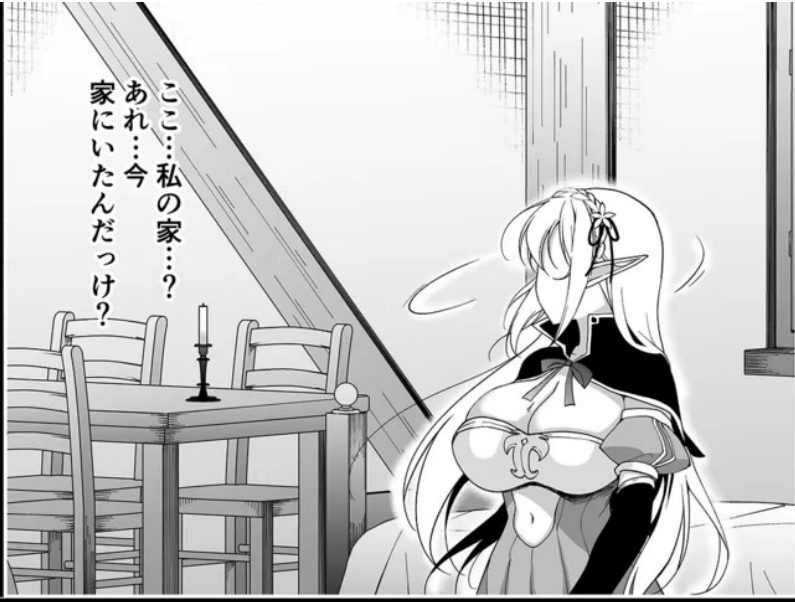


…ダメそうだ



これは幻術魔法…
石畳の下にスイッチが
隠されてたか

おい…
大丈夫か



ここ…私の家…?
あれ…今
家にいたんだっけ?



なんだか
ポーっとする…
今、何してたん
だっけ…?



あ…そっか
そういえば…



うわっ…
なんだ!?

びしっ



さっきから
ずつと…



脱衣してる…
こいつ家かどこかと
勘違いしてるな

フル

って…

あ



はあ…





なんで...?
何度もイってる
のに...っ

あーあーあーい

あーあーあーい



あーあーあーい

あーあーあーい

あーあーあーい



気持ちいいの
全然とまらないっ...

あーあーあーい

あーあーあーい



あーあーあーい

あーあーあーい

あーあーあーい



...30

30

...30

30

30

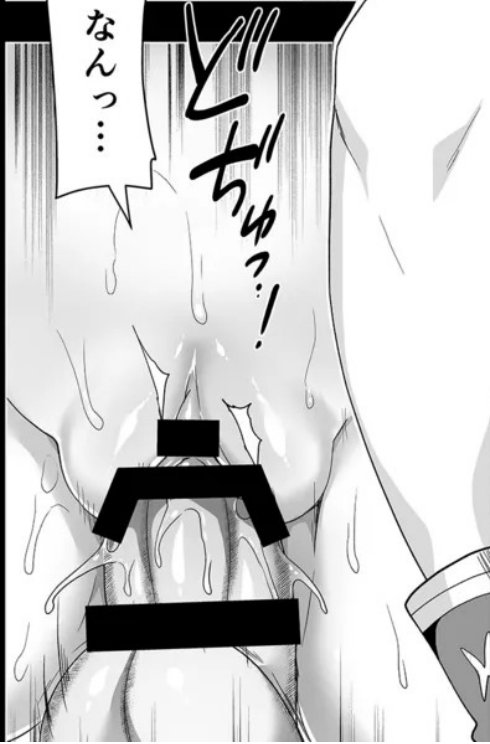
30

30

30

30

30





いきなり私っ…
犯されてるの……っ

なんで…
どうして……

アッ…

アッ…
アッ…

アッ…
アッ…

アッ…

アッ…

アッ…
アッ…

アッ…

アッ…

アッ…

アッ…

アッ…

アッ…

ああ…
ずじと……

アッ…

アッ…

アッ…



っ!?

きゃっ!



おい...そっちは
どうなって...



宝玉...

この先に
あるんだけどお
.....

グッ

グッ

きゃ♡

きゃ♡

きゃ♡

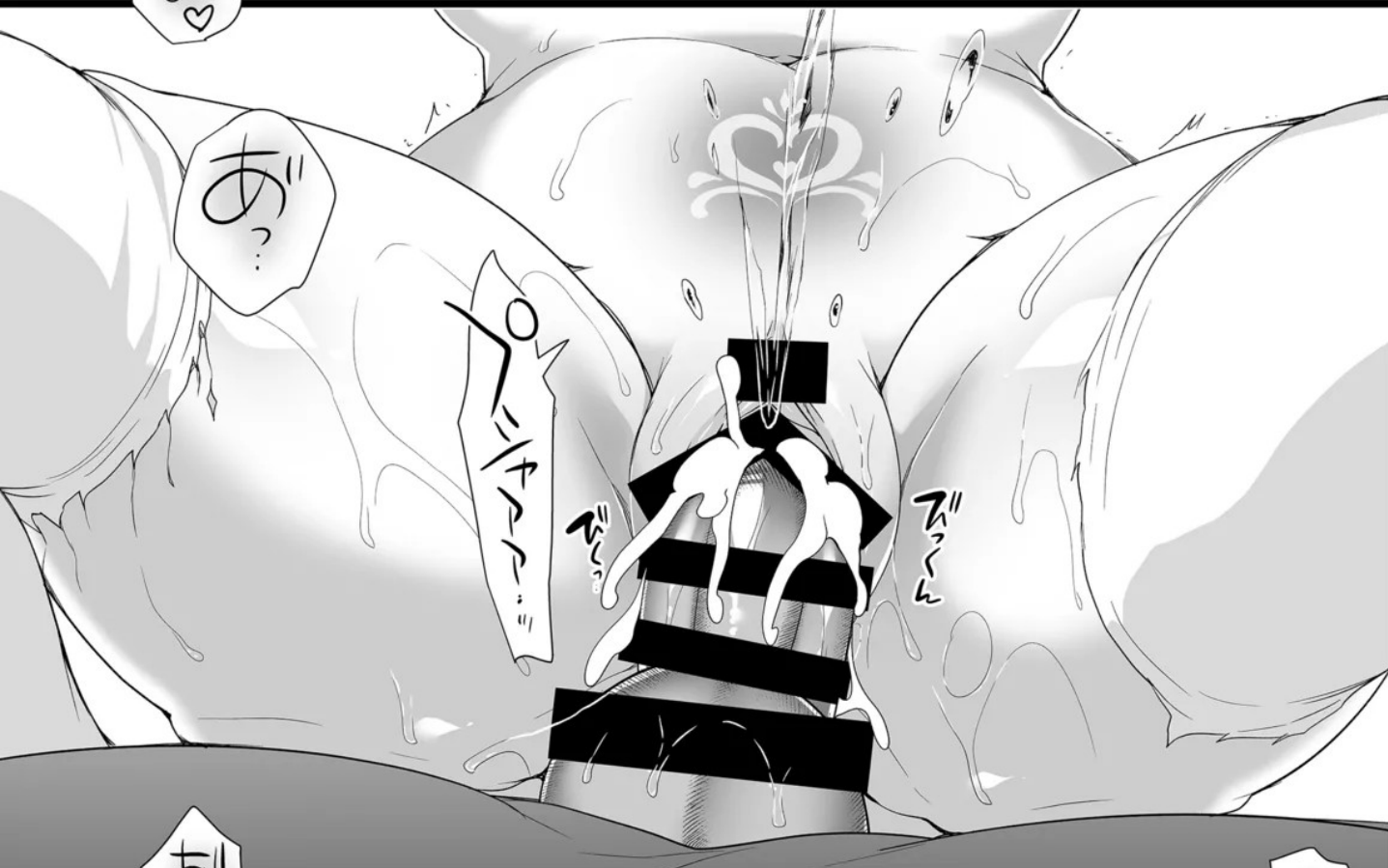
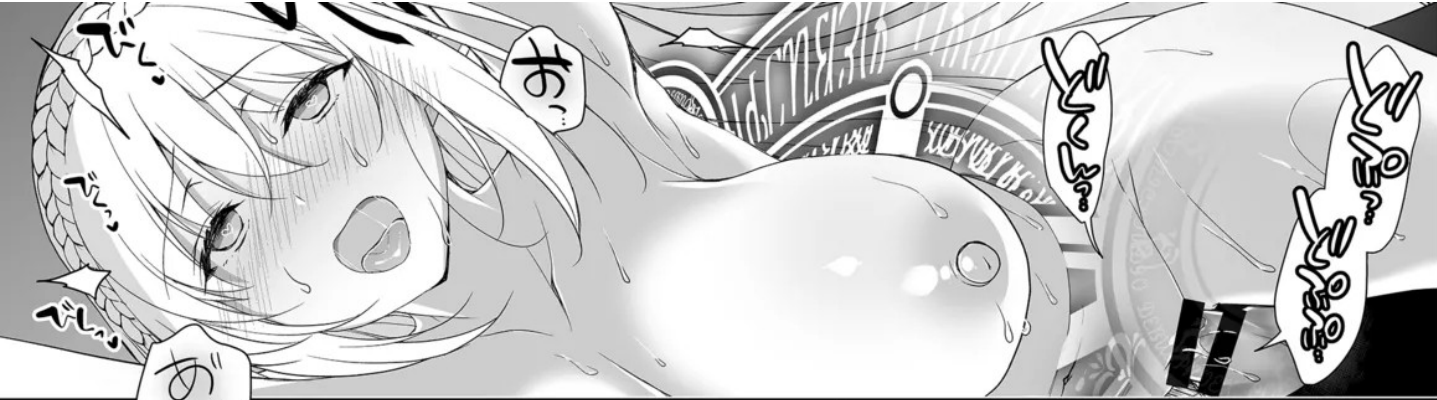
グッ

ちよっと
遠いからあ...♡

もう少しだけ

じじじ...







だが帰りが遅くなり
心配した族長には
あとでめちゃくちや
怒られたのだった
.....

数時間の
押し問答の末
.....
シルファたちは
宝玉を
手に入れた—

取れたか？
.....
まらあ...♡
♡
♡

エルフに淫紋を付けてイカせまくる、オリジナルえろファンタジー！第4弾

▼story

謎の男とともに、エルフの里に戻ることにになったシルファ。
淫紋の力はエルフの里の族長にも及び、
シルファは里のみんなの前で、謎の男に協力すると誓う羽目に。

里のエルフたちは淫紋の力に堕ち、男は次々と所構わず行為に及ぶ。
一人放置され、男への怒りと欲求不満を募らせるシルファだったが、
族長から『男と共に新たな宝玉を探すように』と伝えられ…

▼situation



※製作中の画像です

and more…♡

新たな宝玉の祀られたダンジョンには、数々のエロトラップ…!

シルファは無事脱することができるのか…?